

平成25年度第1期えるのす連続講座～女性大学～

社会とつながり、心豊かに 開催結果の概要

月日	演題	講師
5/28 (火)	北海道の経済学	札幌大学経済学部経済学科 准教授 武者加苗
6/4 (火)	孤立死から見る地域の絆	北翔大学人間福祉学部 教授 林恭裕
6/10 (月)	現代中国のジェンダー	北海商科大学商学部 教授 蘇林
7/2 (火)	地域社会とメディア・コミュニケーション	札幌大谷大学社会学部地域社会学科 准教授 北郷裕美
7/9 (火)	笑う門にはケア来る	有限会社グッドライフ 代表取締役 宮崎直人
7/16 (火)	『雨月物語』『浅茅が宿』を読み解く —「貞女」からの解放—	藤女子大学文学部日本語・日本文学科 准教授 山本綾子
7/23 (火)	科学者を育てる教育 生物ロボットを創る研究	北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授 山崎健一
7/23 (火)	日本人の寿命と健康寿命	札幌医科大学保健医療学部基礎臨床医学講座内科学分野 教授 齋藤重幸
7/30 (火)	「聴く」ことの力 コミュニケーションとしてのインタビュー	北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科 教授 大島寿美子
8/6 (火)	現在（いま）を知る	北海道新聞社 論説委員 貴志雅之

平成25年5月28日（火）

北海道の経済学

札幌大学経済学部経済学科准教授 武者加苗



全体を平均した日本経済とそれぞれの地域経済は異なります。中でも私たちの住む北海道の経済はどのような特徴を持つのでしょうか。講義では、経済学の考え方とはどういうものかについて説明いただくとともに、北海道経済の特徴や限界、また活性化に向けて今後どうしていけばよいのかをお話いただきました。そして、特に北海道の場合、地理的に独立していることからモノやヒトの道外への移動が少なく道外の地域のことを経験する機会が少ない。独りよがりには陥らないという意味で、他の地域や過去と比べる視点を持つことが非常に重要になるとお話いただきました。

平成25年6月4日（火）

孤立死から見る地域の絆

北翔大学人間福祉学部教授 林恭裕

最近、孤立死が報道される機会が増え、私たちは今の社会に対して漠とした不安を感じ始めています。孤立死とは、今の社会の何を映しだしているのでしょうか。講義では、なぜ孤立死が問題なのか、なぜ孤立死が起こるのか、また、孤立死防止の取り組みなどについてお話いただきました。そして、地域が見えなくなっている今、地域の課題を発見、共有化することにより、一人ひとりの多様性を認めたいうえで、どのようにしてつながり合い新しい絆を築くのか、社会の構成員である私たちが社会をどう考えていくかが問われているとお話いただきました。



平成25年6月10日（月）



現代中国のジェンダー

北海商科大学商学部教授 蘇林

現代中国では、婚姻、家族、人間関係において様々な変化が現れ、その変化に相応して女性の価値観も大きく変容しています。講義では、日本の「良妻賢母」に対し、「賢妻良母」とされる中国の家庭における女性像や、婚姻観から見る女性の地位変化、また、社会的地位調査が示す中国女性の現状や課題などについてお話いただきました。そして、易経の陰陽のように、男女は社会の変化、文明の発達度合に関わらず、その関係性に変ることなく、対立しながらも調和される関係にあり、共に社会を構成する基礎となるべきもの。陰陽（男女）のバランスを取ることが大切とお話いただきました。

平成25年7月2日（火）

地域社会とメディア・コミュニケーション

札幌大谷大学社会学部地域社会学科准教授 北郷裕美

現代の地域社会は多くの問題を抱えつつ、かつてのような課題解決のための地域内のコミュニケーション空間は失われてきました。今こそ、地域内のコミュニケーション循環および議論の空間（場）が必要です。講義では、昔のような井戸端会議や広場に替わる場として地域メディア、とりわけコミュニティFMやインターネットの役割についてお話いただきました。そして、行政と市民との双方向コミュニケーションは必須であり、協働を図るためのマネジメントのツールとしてこのようなメディアが必要である。まちづくりのツールとして、コミュニケーションの空間としてコミュニティ・メディアに参加し大いに利用してほしいとお話いただきました。



平成25年7月9日（火）

笑う門にはケア来る

有限会社グッドライフ代表取締役 宮崎直人

認知症の方と一緒に過ごす施設の現場では、日々のケアは笑いと涙です。講義では、「支援の視点が変わる7つの贈り物」と題して、事例紹介や折り紙体験、またDVDを見ながら、先生が施設の現場で体験したことや感じたことなどをお話いただきました。そして、豊かに生活するためにはお互いに知り合おう、わかり合おうとすることが大切。例え認知症であっても感情・感性は最後までそこに在る。感情に働きかけることが大事。「認知症になったらどうするか？」も大事だが、「認知症になっても大丈夫！」という地域（まち）や日本、世界にすることが大切とお話いただきました。



平成25年7月16日（火）

『雨月物語』「浅茅が宿」を読み解く—「貞女」からの解放—

藤女子大学文学部日本語・日本文学科准教授 山本綾子

江戸時代の怪談として知られる『雨月物語』。しかし、『雨月物語』の魅力は、卓越した怪異表現だけではなく、怪異を通して描かれる人間観や社会観にもあるのです。講義では、『雨月物語』から「浅茅が宿」を取り上げ、典拠となった中国の伝奇小説『剪燈新話』「愛卿伝」と読み比べながら、そこに描かれている人物像の違い、人間らしさをすくいあげよう、儒教的価値観から脱却しようとした作者上田秋成の意図などについて、作品に密接にかかわる江戸時代特有の文化的な背景を織り交ぜながらお話いただき、〈江戸〉を通して〈現代〉を考えました。



平成25年7月23日（火）

科学者を育てる教育 生物ロボットを創る研究

北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授 山崎健一



人間の脳は好きなものに対しては活発に働き、短時間に多くの情報量を無意識のうちに吸収し理解することができます。興味は、教育における「学習の動機付け」において最も重要な要素です。講義前半では、「興味の対象」は世代ごとにより変わり、動機付けの仕方も年齢ごとに異なることを、先生が実際に携わっている小学生対象のサイエンス教室や、大学生の「生物ロボットコンテスト」世界大会を例に挙げながらお話いただきました。また、講義後半では、各国の大学生チームが作りだしたアイデアあふれる生物ロボットを紹介いただきながら、「生物ロボットを創る研究」の魅力についてお話いただきました。

平成25年7月23日（火）

日本人の寿命と健康寿命

札幌医科大学保健医療学部基礎臨床医学講座内科学分野教授 齋藤重幸

日本人は世界で1～2の長寿です。講義では、数々の統計資料を用いながら、急激に高齢者の人口が増えている日本の現状を改めて捉え直すとともに、高齢者に多い死因、健康寿命とは何か、介護の現状、PPK（ピン・ピン・コロリ）と突然死など、我が国における高齢者の現状について説明いただきました。そして、健康維持のポイントは、健診を受けるなどして早めに予兆を知り予防すること。病气や要介護状態にならないようにすることが必要。楽しく生きて笑って過ごしたうえで、健康習慣に気をつけましょうとお話いただきました。



平成25年7月30日（火）

「聴く」ことのコツ コミュニケーションとしてのインタビュー

北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科教授 大島寿美子



「聴く」とは単に耳を傾けることではなく、もっと積極的な営みです。講義では、コミュニケーションとは何かについて、古典的コミュニケーションモデルや語源について説明いただくとともに、インタビューのコツや具体的なテクニックについてもお話いただき、簡単なインタビュー体験も行ないました。そして、インタビューの醍醐味は新しい関係性をつくり出せること。また、人と話すことで自分が考えてもみなかった自分に出会えたり、新しいアイデアがわいてくる。話を聴き合うことで元気にもなれる。より相手の話を聴くことでお互いに元気になれる関係性を築いていってもらえたらとお話いただきました。

平成25年8月6日（火）

現在（いま）を知る

北海道新聞社論説委員 貴志雅之

安倍自民党の圧勝に終わった7月の参議院選挙。講義では、参議院選挙を振り返りながら、景気回復に寄せる国民の期待、また、財政再建や原発問題など課題の山積している安倍政権の現状について解説いただくとともに、「アメリカから見た日本」についてもお話いただきました。そして、外交は各国が自国を第一に考えて交渉してくる。対話関係を築いて、互いに利益が享受できるような道を探れるかが重要。米国と中国が関係を深めるなど変化する国際情勢の中で、日本も深い洞察力を持って対応しなければ厳しい状況に置かれる可能性があるとお話いただきました。

